

# かみのほたるを守る会

鈴鹿市西庄内町上野地区を流れる八島川沿い一帯は、古くからホタルが自然発生し、季節になると、幻想的な光に包まれます。「かみのほたるを守る会」では、この景観と自然を守るために「鈴鹿ほたるの里」を整備し、来訪者に心安らぐ時間を過ごしてもらおうと、さまざまな活動をしています。

今回、お話を伺ったのは、「かみのほたるを守る会」初代会長の大石徹也さん。場所は、上野地区の防災センターです。災害時の炊き出し用の籠などが整備された同センターは、「鈴鹿ほたるの里」の拠点にもなっていて、飛び交うホタルの様子を一望できるウッドデッキが設置されていました。

——上野地区では昔からホタルが見られたそうですね。

大石：ここは、鈴鹿山脈の裾野で八島川の源流に位置していますから、美しい自然が残っています。毎年5月20日前後から6月中旬ごろにかけて、数千匹程度のゲンジボタルやヘイケボタル

が飛んでいるのは、ごく普通のことだつたのですが、実は平成14(2002)年に大量発生したことがあり、山一面が輝いて、まるでイルミネーションのようだつたのです。

——それは、想像するだけでワクワクします。多くの人が見学に来ただの

でしょうね。

大石：そうなのです。ところが暗い中でホタルを追いかけるため、川に転落するなどの事故が起きて、とても危険な状況でした。これではいけない、来てくれた人たちが安全に見学できるようによしよると、翌年に結成したのが「かみのほたるを守る会」です。見学客への対応としては、「鑑賞路」を整備して転

が飛んでいるのは、ごく普通のことだつたのですが、実は平成14(2002)年に大量発生したことがあり、山一面が輝いて、まるでイルミネーションのようだつたのです。

——それは、想像するだけでワクワクします。多くの人が見学に来ただの

でしょうね。

大石：そうなのです。ところが暗い中でホタルを追いかけるため、川に転落するなどの事故が起きて、とても危険な状況でした。これではいけない、来てくれた人たちが安全に見学できるようによしよると、翌年に結成したのが「かみのほたるを守る会」です。見学客への対応としては、「鑑賞路」を整備して転

落防止用のネットを張ったり、案内板を設置したり、駐車場やトイレの整備などです。ホタル保護としては、農家に呼びかけて農薬の使用を極力控えてもらつたり、合併浄化槽を設置したりと、これまでにいろいろと取り組んできました。

——皆さんの心配りで、毎年3万近くの人が県外からも訪れると伺いました。

大石：特に際立った特徴のない所に、大勢の人が来て、幸せな気分になつてもらえると、こちらも張り合いがあります。毎年、「鑑賞期間」の初日に開催する「ほたる祭り」では、見学者にふるまうための味ご飯や草餅を、地域のお



幻想的な光を放つホタル※



「鑑賞路」沿いに咲くアジサイ※



「防災センター」内に設置された籠



ウッドデッキからの眺め

——年寄りが心を込めて作っています。  
——それは、すてきですね。ところで  
本年の「鑑賞期間」はいつですか？

大石：今年は5月25日(土)から6月30日(日)までを設定しています。ホタルはとても繊細な生き物ですから、雨風が強い日は避けた方がいいでしょう。満月などの月明かりも不向きです。時間は午後8時から10時ごろまでがおすすめです。

——わかりました。期間中は少し早めの時間に来ると、「鑑賞路」沿いに植え

られたアジサイも楽しめそうですね。  
大石：はい。ぜひ楽しんでください。実は、平成17(2005)年にサクラを植樹したのですが、ホタルの時期に見ごろを迎える花はないかと考えて、アジサイも植えたのです。今後は、アジサイ観賞やセンターの籠を使ってのご飯焼きの後でホタルを観賞するという体験ツアーも検討しています。

——ありがとうございました。お話の後、ウッドデッキに出ると、目の前にはどかな風景が広がり、思いっきり深呼吸しました。これは、会の皆さんによる日々の保全活動の賜物といえるでしょう。「鈴鹿ほたるの里」を訪ねれば、ホタルの光と地域の人々のおもてなしの笑顔に包まれることでしょう。

なお、観賞の際にはホタルを捕まえない、喫煙しない、フラッシュ撮影しないなどの注意事項を守るようにします。また、運営資金への協力金は100円となっています。

インタビュー…中村真由美



初代会長の大石徹也さん

## お問い合わせ

「かみのほたるを守る会」  
鈴鹿市西庄内町1498  
(防災センター)  
TEL 059-371-2254  
TEL 090-4859-0113  
(大石徹也さん)